



美しい森林づくり推進国民運動

全国の生協が地域特性を活かして 「コープの森」づくりに取り組む

— 日本生活協同組合連合会



2011・国際森林年

青森県内の国有林でブナ・ヒバの植樹(青森県生協連)

「コープの森」づくりについて語る組織推進本部
環境事業推進室室長の大沢年一さん(左)と、渉
外広報本部 本部長スタッフの市川智弘さん(右)。



森をささえよう

森と暮らそう

日本生活協同組合連合会(以下「日本生協連」)は、全国で600以上の生協が会員となつている生協の連合会。「市民の協同の力で人間らしくらしの創造と持続可能な社会の実現を目指す」という理念のもと、さまざまな環境活動と共に森林保全にも積極的に取り組んできました。

日本生協連は、平成19年に発足した美しい森林づくり全国推進会議の構成団体でもあります。美しい森林づくりをより幅広く展開していくため、昨年3月「フォレスト・サポーターズ」にも登録しました。

森林保全の活動は、日本生協連の会員である全国の生協が、それぞれの地域の特性を活かして自発的に取り組んでいるものです。

中でも最も早くから取組が始まったのが、みやぎ生協の「マツぶの森づくり」事業です。平成4年に仙台市の永倉山にクリの植栽を行なったのを皮切りに、現在までに県内6カ所で4万8千本20ヘクタールの森を作ってきました。

青森県生協連では、牛乳パックの回収益金を活用した「ふれあいの森活動」を平成13年にスタートさせました。県内2カ所の国有林で植樹祭を実施し、毎年、ブナやヒバの

苗木を植えています。

コープこうべでは、昭和53年からレジ袋の削減に取り組んでおり、有料化(1枚5円)しています。その代金の一部を活用して、平成20年から西宮市の里山を「コープの森・社家郷山」と名付け、兵庫県、「企業の森づくり」制度第1号として兵庫県、西宮市、(社)兵庫県緑化推進協会との4者で協定を結び、森林整備と環境学習を進めています。この森で実施した植生調査では、ヒメハビイチゴなど絶滅危惧種の生育が確認され貴重な種の保全に一役買っています。

コープさっぽろでは、組合員一人ひとりの意識が森づく

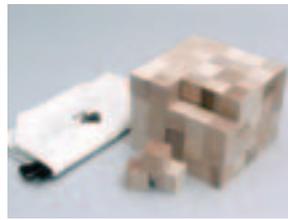


🌿 「コープの森」の下草刈り(コープこうべ)

フォレスト・サポーターズ
4つのアクション
活動紹介



🌿 ヒノキ間伐材を利用した壁材を貼った信州大学の食堂



🌿 温かみがあり安全な間伐材の積み木(上)と、間伐材を活用した食器類等(左)

今日からやろう! 森のための
4つのアクション

🌿 森にふれよう

🌿 木をつかおう

りへとつながる仕組みを目指し、平成20年に「コープ未来(あした)の森づくり基金」を設立しました。レジ袋を辞退すると0・5円が基金に積み立てられる仕組みで、平成21年度は約2620万円の基金が集まり、北海道内8カ所です自治体と協定を結んでの森づくりに役立てられています。

ここで紹介した事例はほんの一部にすぎず、他にも、森林ボランティアを育てる間伐体験セミナーや、木製品の生産者との交流など多様な取組が行なわれています。

日本生協連として平成7年から取り組んでいるのが「グリーンライフ」という事業です。これは体験と交流を通じて自然の豊かさや農林漁業の大切さを学ぶ旅で、生協版グリーン・ツーリズムです。地元森林組合等と協力して「森の学校・森の宝さがし(長野県飯山市)」、「ネイチャーゲーム(群馬県片品村)」など都会の子どもたちが森林にふれ、森林の豊かさや大切さを学べるプログラムを組合員に提供しています。

また、日本生協連では間伐

材を活用した商品を生協に供給しています。その一つがヒノキの間伐材を使用した壁材で、リラックス効果やダニ防止効果があり、設置も簡単にできることから、子供部屋やペットのいる家庭用として好評を得ています。これまでに信州大学の食堂や、埼玉大学附属幼稚園などにも導入されました。このほか間伐材を活用した商品には、漆塗りの椀、まな板、蒸し器、箸などの食器類や、積み木、ブロックなどのおもちゃがあります。木製品の温かみや、子どもが舐めても安心な安全性が組合員に評価され、ロングセラーとなっています。

今年も、国際森林年です。日本生協連としても、教職員を対象とした学校生協を中心に、定期配布するチラシやホームページを活用したPR活動を行なっていく予定です。今後は、国際森林年もステップとしながら、会員生協の取組にさらなる発展が期待されます。会員生協からの情報収集とその提供に努め、情報交流を通して森林づくりの取組をサポートしていきます。